

教育こども常任委員会所管事務調査報告書

西宮市議会議長 田中 正剛 様

平成 29 年 12 月 18 日
(2017 年)

教育こども常任委員会

委員長 吉 井 竜 二

副委員長 一 色 風 子

委 員 岩 下 彰

〃 坂 上 明

〃 庄 本 けんじ

〃 はまぐち 仁士

〃 福 井 浄

〃 松山 かつのり

随 行 松 井 友 樹

教育こども常任委員会管外視察について、次のとおり報告いたします。

1 調査先及び調査事項

戸田市

- ・産官学民連携による先進的な教師力向上教員研修について

松戸市

- ・子育てコーディネーター事業について

船橋市

- ・小中学校運動部活動指導者派遣事業について

石川県

- ・在宅育児家庭への支援について

2 調査期間

平成 29 年 10 月 18 日(水)～平成 29 年 10 月 20 日(金) 2泊3日

3 調査先対応者

戸田市

議会事務局主幹	仙 波 敦 雄
教育委員会教育長	戸ヶ崎 勤
教育委員会教育政策室長兼教育政策担当課長	渡 部 剛 士
教育委員会教育政策室教育センター所長	手 塚 浩
教育委員会事務局教育総務課長	粟 津 典 浩

松戸市

議会事務局議事調査課長	大 谷 昇
議会事務局主査	飯 田 陽 子
子ども部子育て支援課長	小 川 哲 也
子ども部子育て支援課主幹	大 場 慶 育
子ども部子育て支援課主事	野 口 千沙都
NPO 法人子育てひろばほわほわ子育てコーディネーター理事	駒 口 文

船橋市

議会事務局庶務課主事	杉 山 達 朗
教育委員会学校教育部保険体育課課長補佐	江 口 勝 美
教育委員会学校教育部保険体育課副主査	斉 藤 智 海
教育委員会学校教育部保健体育課副主査	小 川 克 義
教育委員会学校教育部保健体育課副主査	土 屋 達 彦

石川県

議会事務局企画調査課調査専門員	小 暮 孝 彦
健康福祉部少子化対策監室子育て支援課長	森 田 典 子
健康福祉部少子化対策監室課長補佐	谷 野 明 勝
健康福祉部少子化対策監室保育グループリーダー	山 川 恵 子

4 用務経過等

<戸田市> 10月18日(水)

午後1時20分頃、戸田市議会に到着。

馬場議長より歓迎の挨拶と市の概要説明をいただく。その後、教育委員会の戸ヶ崎教育長より教育行政全般及び調査事項について説明を受け、事前に依頼していた質問事項に対する回答をいただき、質疑、意見交換を行った。

(午後3時20分視察終了)

■ 産官学民連携による先進的な教師力向上教員研修について

埼玉県内で住民の平均年齢が若く、子供の数が年々増えている戸田市では教室不足が喫緊の課題となっている。同市では「教育」を主眼に「子育て」をシティセールスとするべく、市長部局と密接に連携し、意思疎通を図ってきた。

同市では子供たちに特に「人間ならではの感性や創造性を伸ばす」「AIで代替は難しい力の育成」をつけてもらいたいと考え、専門的な見地から幅広く様々な知見を取り入れるべく産官学民と積極的に連携した“攻め”の教育行政に取り組んでいる。

その一つとして指導のプロである教員と、各種コンテンツ開発などのプロである研究者等がインタラクティブな関係を目指した「戸田市 WIN-WIN 構想」を掲げている。その他にも学習指導要領の趣旨徹底、校長のリーダーシップの向上、アクティブラーニングの推進などに取り組んでいる。

また、エビデンスベースによる効果検証に基づく授業改善や教員の授業力等の数値化、民間教育事業者の力を活用した教員の資質能力向上研修なども実施し、教職員の学びの場の提供も積極的に行っている。

その際、教育委員会や学校が企業研究等の単なる受益者や消費者に陥らないよう真の協働者になっていくことを大切にしており、そのために教育に携わる者全てが学び続ける「学び続ける教育委員会」をモットーにしているとのこと。

<松戸市> 10月19日(木)

午前9時50分頃、松戸市議会に到着。

議事調査課の大谷課長より歓迎の挨拶と市の概要説明をいただく。その後、子育て支援課の大場主幹より説明を受け、事前に依頼していた質問事項に対する回答をいただき、質疑、意見交換を行った。

その後、「E-こどもの森・ほっとる一む東松戸」へ赴き、現地視察を行った。
(午前 11 時 30 分頃視察終了)

■ 子育てコーディネーター事業について

松戸市では、近年出生数の減少により乳幼児人口が減少している一方で、児童虐待家庭数は増加傾向にある。同市では、総合的に多様な子育て支援策に取り組んでいるが、子育て支援メニューは多岐にわたるため、子育ての不安を軽減できない方が多数存在していた。

そこで、子育て中の保護者の様々な悩みや疑問を早期に解消することを目的として、乳幼児とその保護者が気軽に訪れる事のできる身近な存在として「子育てコーディネーター」を配置した。

多くの方にその存在を知ってもらうため、各施設へコーディネーター自らがチラシの配布に行ったり、研修等を通して市職員にも認識を深めてもらった。そのほかにも所管課が年に一度市内 5 地区で情報交換会を開催し、市職員をはじめ、保育園、幼稚園、民生委員など市内の子育て支援に関わる団体に参加してもらい、認知度を高め、地域との連携強化に努めている。

コーディネーター同士は、毎年度行われるフォローアップ研修で情報共有を図っており、加えて今年度からは子育てコーディネーターの全体会議を実施すること。

<船橋市> 10月19日(木)

午後 1 時 30 分頃、船橋市議会に到着。

鈴木議長より歓迎の挨拶をいただき、その後、保険体育課の江口課長補佐及び土屋副主査より調査事項について説明を受けた。その後、事前に依頼していた質問事項に対する回答をいただき、質疑、意見交換を行った。

(午後 2 時 15 分頃視察終了)

■ 小中学校運動部活動指導者派遣事業について

本事業は、平成 3 年度に市内小中学校の運動部活動の振興を図るため、専門的な指導力を備えた指導者を必要とする小中学校に対して民間の指導者を派遣し、運動部活動の充実を図ることを目的に開始された。

船橋市教育委員会では、市内の小・中・特別支援学校と、市立高校を所管していることから、体育科職員が多数いる市立高校を除き、要望の多い運動部活動を対象に指導者を派遣している。その際、当該校長と連携を保ち、当該運動部担当者と連携を密にして実技指導及び助言に当たることを特に大事にしているとのこと。

来年度から部活動指導員の各種大会への引率が可能になるよう、国や県の動向を踏まえ、現在検討委員会で協議を進めているが、指導員の職務規定の整備には至っていない。

<石川県> 10月20日(金)

午前9時45分頃、石川県議会に到着。

議会事務局企画調査課の小暮調査専門員より同局綿木次長からの歓迎の挨拶を代読いただいた。その後、子育て支援課の森田課長より在宅育児家庭への支援、特にマイ保育園登録事業、在宅育児家庭通園保育モデル事業について説明を受けた後、事前に依頼していた質問事項に対する回答をいただき、質疑、意見交換を行った。

(午前10時50分頃視察終了)

■ 在宅育児家庭への支援について

石川県では、従来の働いている人ばかりでなく、専業主婦家庭、育児休業中の家庭を含めた全ての子育て家庭を支援する施策に重点を置くことを基本的な考え方とした「いしかわエンゼルプラン2005」を平成17年に策定した。プランの具体的施策として、保育所の整備率が非常に高い特色を活かし、妊娠時から概ね3歳未満の全ての子育て家庭が、育児の専門家の支援を受けて安心して過ごすことができる「マイ保育園」制度を、県独自の子育て支援策として、全国で初めて開始することとなった。

マイ保育園登録率の平均は約6割となっており、一部では登録率が低い市町もある。そのため、出生届提出時や乳幼児健診などの機会も活用し、改めて住民への周知徹底を各市町へ依頼しているとのこと。

また、在宅育児家庭の3歳未満の子どもが、通園による保育サービスの対象外となっていたことから、平成27年度に全国で初めて3歳未満児の在宅育児家庭が保育サービスを利用できるモデル事業に取り組み、現在全ての市町で実施されている。

今後もモデル事業として継続し、事業効果の実証を重ねながら、国に制度化を提案していきたいとのこと。

5 視察風景

■ 戸田市



■ 松戸市



■ 船橋市



■ 石川県

